

## 大分学習療法だより 第4号



2014年2月12日(水)、住友生命大分ビルにおいて、第5回大分学習療法研究会が開催されました。その様子をお届けいたします。

### <プログラム>

◆大分学習療法研究会 首藤会長 挨拶

◆くもん学習療法センター 伊藤副代表 挨拶

◆福岡シンポジウム発表エントリー施設からの中間発表(6施設8発表)

・5月に福岡で行われるシンポジウム分科会発表には、全国から100を超えるエントリーがありました。大分県からは6施設8発表がエントリーしています。その中間報告を発表いただきました。次ページが発表内容一覧となります。

(なお、福岡シンポジウムでの分科会発表は、最終的に約70本程度になります)

◆グループ討議

- ・事例発表の感想、気付いた点
- ・各施設の悩み、問題点、解決策など

◆吹田副会長総括

◆懇親会

◆大分学習療法研究会会長 挨拶 (グランドホーム古国府 施設長 首藤毅志)◆

昨年の7月に設立総会を開催し、スタートした本研究会。今回で5回目を迎えることとなります。活動も、導入施設間の交流を深めるために、まずは役員の事業所を会場として開催されてきました。

今回は、福岡シンポジウムでの事例発表に向け、エントリーされた8事業所に中間発表していただき、その内容について討議していただく場といたしました。

また、理事のグループでは、今年度の活動についての反省と、来年度の活動計画を話し合っていたいただき、研究会に参加される方々にとって有意義な活動となるよう検討していただきます。

会則の目的にあるように、県内の多くの高齢者、障がい者が日常の生活を元気に明るく過ごせる大分にすべく、学習療法導入施設がさらに増えていくよう、今後も皆様のご協力をお願いします。



◆くもん学習療法センター 伊藤副代表 挨拶◆

九州では、大分学習療法研究会をはじめ、福岡学習療法研究会、熊本学習療法研究会が活動しています。また、宮崎、鹿児島では学びの会が始まり、長崎、佐賀でも発足に向けての準備が進められています。このように皆さんが集まり、学び、交流することに価値があります。

地域のネットワークをセンターは応援します。

そして、5月の福岡シンポジウムを九州全体のネットワークのスタート会として位置付けたいと思います。

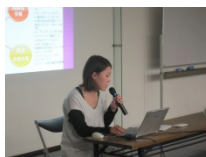
「学習療法を施設に活かす、地域に活かす」を合言葉に、ぜひチャレンジする2014年にしていましょう。



## ◆福岡シンポジウム発表エントリー施設からの中間発表内容一覧◆

(表題・副題は、2月12日時点での仮題です)

敬称略



特養	いずみの園	岡市理佐
表題	継続は力なり	
副題	週5回の学習を目指して！ ボランティアとの協力	
継続的に学習療法の効果を最大限に引き出すため、ボランティア導入に取り組んでいます。これまでの経過とともに、ボランティア導入によってもたらされた学習者や職員への効果を発表します。		



有料老人ホーム	グランドホーム古国府	増尾秀司
表題	チャレンジ リトライ ～導入目的達成のために～	
副題		
職員のコミュニケーション能力アップのために学習療法を導入して7年目。施設環境の変化により、その目的から遠ざかっていく現状を打破し、目標達成に向けリトライにチャレンジしていく過程を紹介しします。		



有料老人ホーム	ケアマンションひだか	松尾律子
表題	みんなが生き生き	
副題	良いことは素直に受け入れ、真摯に実践 そして、人はかわることで変化する	
認知症が進み終日ぼんやりとしてしまった人に、積極的に関わりを持つことで以前のような元気を取り戻してほしい。その取り組みを通して職員が喜びや達成感を味わう。事例とともに学習者や職員の変化を発表します。		



DS	四季の郷デイサービスセンター	貝原久美子
表題	初めて聞いた「がんばってみよう！」	
副題	目標をもつことで、より深く利用者を知る	
「利用者それぞれが個々の目標を持ち、それを職員間で共有し、意識していくことの大切さ」、「そのことにより生まれるかもしれない職員と利用者の素晴らしい関係について」事例を通し発表します。		



障害者支援施設	聖心園	高橋智秀
表題	ミッションとパッションを持ってアクションを起こそう！	
副題	その人らしく生きるために私たちができること	
施設サービスを提供するに当たり、その要となるのがパートナー（職員）であり人財です。施設としての人材育成の取り組み過程・職員の変化を紹介しします。		



障害者支援施設	聖心園	佐藤毅
表題	学習療法係奮闘記	
副題	笑顔の架け橋を架けるころ優しき仲間たち	
全パートナー（職員）の中で中心的な役割を持つ「学習療法係」。学習療法係のちょっとした気づきが「笑顔の架け橋」となります。学習療法係のパートナー（職員）への働きかけや職員育成としてのその効果を発表します。		



介護老人保健施設	和光園	中嶋博徳
表題	地域ネットワークは学習療法の学びと刺激の宝庫	
副題		
学習療法交流会からの学びを入所利用者様・全職員へ還元。職員が成長できることで関わりが深まり自立支援へとつながります。学習療法研究会に参加した学びを、部署に持ち帰り検証、ていねいなシステム作り。その取り組みを発表します。		



介護老人保健施設	和光園	仲島千秋
表題	施設から在宅への切れ目のない学習療法への挑戦	
副題	導入プロセスと実践から学べた通所リハビリの役割	
地域や入所・通所の利用者様に切れ目のない学習療法の提供ができ、学習者と共に職員が成長できる。その目標への取り組み経過を発表します。		

## ◆グループ討議◆

5つのグループに分かれ、事例発表からの学びや感想、自施設の悩み、問題点などについてグループ討議を行いました。

### ～事例発表を聞いて～

⇒学習者一人一人に合った学習方法を考え、実施したり、職員も情報共有するなど、工夫をすることが結果につながっていると感じました。

⇒学習者が他の利用者に絵本を読み聞かせしている姿に感動しました。

⇒学習支援者、学習回数確保のためのボランティア活用が参考になりました。

### ～グループ討議の感想～

⇒他の事業所の問題点や課題を知ることができ、改めて自施設の取り組みを振り返ることができました。

⇒どのように目標設定をしているか、全盲の方への対応など、グループの中で話し合えた。

⇒人材育成などの悩みについて、他施設の取り組みや対策を伺うことができました。

⇒職員の意識を変えるための方法を考え、相談する良い場だと思えます。



## ◆懇親会◆

その後、場所を変えての懇親会。グループ討議以上に熱い議論が飛び交う一幕も。



## 第5回研究会に思うこと(大分学習療法研究会会長 首藤毅志)

平成26年初めての研究会ですが、同時に今年度最後の研究会となりました。

今回は「福岡シンポジウム」に向けエントリーした事業所の中間発表をもとに、参加された方々の様々なご意見をお聞きすることをテーマといたしました。発表後の総評では、伊藤副代表から、事例ごとにコメントをいただきました。なかでも、内容の意をとらえた「サブタイトル」は、発表者にも、自施設の内容を整理するための材料になったのではないのでしょうか。また、理事のグループで検討された、来年度の活動計画のなかに、11月に川島先生をお呼びし、大分でミニシンポジウムを開催しようとの案が出て、その実現に向けて動き始めました。徐々に勢いを増している大分学習療法研究会です。

## ◆次回の予告◆

次回、第6回大分学習療法研究会は、4月19日(土)宇佐市の和光園にて開催予定です。詳細は後日ご案内いたします。

## ◆お知らせ◆

### 学習療法シンポジウム in 福岡

日時：2014年5月11日(日)

場所：福岡国際会議場

“参加型”“交流型”のシンポジウムです。ぜひご参加ください。

(学習療法研究会HPより申し込みができます)

### 映画「僕がジョンと呼ばれるまで」

いよいよ3月1日公開。福岡県のユナイテッド・シネマ福岡で上映されます。

学習療法、介護に関わる全ての皆さまにぜひご覧いただきたい、介護の可能性・希望を感じることができる映画です。

公式サイトもご覧ください。 <http://www.bokujohn.jp/>

## (後記)

今回初めて参加された方から

「初めての参加だったが、発表されたどの施設も、課題に対し前向きに取り組み解決されている内容が多く、楽しく聞かせていただいた。」

「初めての参加で、ちょっと緊張したが、他施設の取り組みを聞き、とても勉強になった。」

というご意見をいただきました。

「大分学習療法研究会」は、学習療法を導入・実践されている施設の皆さまが集まり、学びあう交流の場です。

まだ参加されたことのない施設の皆さま、是非ご参加ください。同じ志を持った多くの仲間と出会うことができます！